

## 夏を満喫

JAうつのみや  
アグリスクール

栃木県のJAうつのみやは7月中旬、宇都宮市上欠町の水田で「アグリスクー

辺の生き物を調査した。

姿川環境保全会の鈴木康男会長が「田んぼには、さまざまな生き物がいるので、どんなものがあるか、皆さん探してみてください」とあいさつした。

参加者は網、虫籠、バケツを持って、農道や水田内を歩き、ヤゴ、オタマジャクシなどの昆虫や水生生物を見つけるとバケツに入れていった。

調査後、栃木県立博物館の職員らがアドバイザーを務め、参加者が捕まえた生き物の特徴などを解説した。ニホンアマガエルとトウキョウダルマガエルの鳴き声の違いや、コオイムシの名前の由来など、参加者は田んぼ周辺の生き物に対する理解を深めた。

参加者の黒澤香奈さんは「夏場の田んぼに入って水中や周辺の生き物を捕まえる経験は貴重だと思った」と話した。息子の凜央君(4)は「生き物を10種類捕まえた」と笑顔を見せた。体験後、参加者は地元産の特別栽培米「コシヒカリ」などを使ったカレーをおいしそうに食べた。

同スクールは、JAが地域住民を対象に、くらしの活動の一環として実施し、2017年度で活動6年目に入った。(栃木・うつのみや)



水田内で生き物を探る参加者

ル田んぼまわりの生き物調査」を開いた。スクールの参加者10家族31人の他、栃木青少年センターによる「子どもわくわく体験教室」などからの参加者を合わせて232人が、水田内とその周